



二輪草だより

令和5年度 第1回

地域を紡ぐ看看連携セミナー

～はじめよう、つなげよう 北海道スタイルで創る看護と看護の連携～

テーマ 「入院関連機能障害の予防にむけて-病院と在宅の連携-」

令和5年度第1回は、入院関連機能障害の予防について取り上げます。入院関連機能障害は地域と病院がそれぞれの役割を果たし連携することで効果的に予防できます。実際の看護とリハビリテーションについて理解することで実践や連携に活用できる内容です。ぜひご参加ください。

「令和5年度 地域を紡ぐ看看連携セミナー(第1回)」 を実施しました

令和5年度第1回地域を紡ぐ看看連携セミナーは、「入院関連機能障害の予防にむけて-病院と在宅の連携-」をテーマとし、令和5年7月11日(火)、ハイブリッド形式で実施し、42名(学内21名、学外21名)の参加がありました。



☆調査報告「在宅の暮らしを支える訪問看護師が大切にしていること」

旭川医科大学看護職キャリア支援センター 地域看護職支援部門 牧野志津助教より、本事業に先立ち行われた『北海道の訪問看護事業所の管理者とそこに在籍する看護職の連携に関するニーズ調査』の「訪問看護師の大切にしていること」に関する調査結果について説明がありました。

訪問看護師が大切にしていることは、利用者とその家族が住み慣れた場所で笑顔のある穏やかなその人らしい生活を継続するために訪問看護の特性を踏まえたより良いケアを実践することでした。看護を提供する場が異なる訪問看護師の大切にしていることを理解することは、看看連携における基盤づくりとして重要であり、相互理解を進めるための示唆となると考えられました。

【お問い合わせ先】 旭川医科大学 二輪草センター(復職・子育て・介護支援センター)
〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1
TEL: 0166-69-3240(内線3240) サンニンヨレ FAX: 0166-69-3249
開設時間: 8時30分～17時15分 E-mail: nirinsou@asahikawa-med.ac.jp
ホームページ: <http://www.asahikawa-med.ac.jp/hospital/nirinsou/>



☆レクチャー「入院関連機能障害の予防にむけて」
脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の大宮剛様より上記レクチャーをいただきました。



入院関連機能障害とは、原疾患によらない入院中の安静臥床が原因となるADLの低下を指します。HADの予防としては、①入院前の生活からの活動量低下を最小限にとどめること、②多職種連携、③患者さんとのかかわりをポイントとして具体的な介入に関して説明いただきました。
また、離床に対し積極的ではなかった患者さんに「人が『生きる』ことを成り立たせる5つの位相(生命、コミュニケーション、身体、家庭生活、社会生活)」からアプローチを考えることで、「生きる全体性」が活性化し心身の回復が促進された事例を紹介いただきました。

☆レクチャー「在宅でのリハビリテーションの実際」



本院のリハビリテーション部理学療法士の塚田鉄平様より上記レクチャーをいただきました。
在宅で看護師が有効にリハビリテーションを行うという視点から入院リハビリと訪問リハビリの違い、初回評価、日常の体調のベースラインの評価、目標の共有、生活にリハビリを組み込む、フィードバックするなどの要点を説明いただきました。とくにリハビリを組み込むにあたっては、週に数回限られた時間のリハビリ以外の時間の過ごし方が重要であり、身体は動かさなくても心を動かすことが重要であることが示されました。

また、運動量を調整することによって入院回数を減らすことができた慢性心不全患者の症例、引きこもりがちな生活から買い物を含め活動範囲を向上することができた認知症の症例の紹介をいただきました。

☆質疑と事後アンケート

講演後には、旭川は回復期病棟が多く脳卒中連携パスなどを用いて連携できている。高次脳機能障害など顕在化するのに時間を要す病態もあるので在宅を急ぐよりも十分なりハビリをするという考え方も重要であるという点をディスカッションされました。

事後アンケートでは、9割以上の参加者が満足し、病院や他の診療科、在宅でのケアの視点やリハビリの実際を知ることができ、ケアに活かせるなどの意見をいただきました。

次回は、レクチャーに加え事例検討を予定しています。多くの方の参加をお待ちしています。



病児一時預かり室、バックアップナース、病児・病後児保育室、カウンセリング相談 【8月20日～9月19日までの利用状況】

病児一時預かり室	依頼回数	0回	利用回数	0回
バックアップナース	依頼回数	13回	稼働回数	13回
病児・病後児保育室	依頼回数	6回	利用回数	5回
カウンセリング相談			利用回数	5回

* 病児一時預り室、病児・病後児保育室は全職員・学生がご利用になれます